

# TOPICS

## 日本の防衛、この一年

○陸自によるイラク人道復興支援活動を効果的に実施することができた要因とは？  
(P137、P285参照)

イラク人道復興支援活動を行っていた陸自が、一件の人的被害も出すことなく、無事任務を終え帰国しました。陸自が活動を効果的に実施することができた要因には、派遣地域の選択、政府開発援助（ODA）との連携、過酷な環境への対応策、現地住民との交流、諸外国の防衛担当組織などとの友好的関係が挙げられます。現在もイラク・クウェートでは空自が、インド洋では海自が活躍しています。海自掃海部隊のペルシャ湾への派遣、カンボジアのPKOへの参加に始まったこうした国際平和協力活動は、自衛隊の本来任務の一つになりました。わが国の平和と独立は、国内での活動だけではなく、こうした広く海外の国際平和活動を通じて達成される時代です。



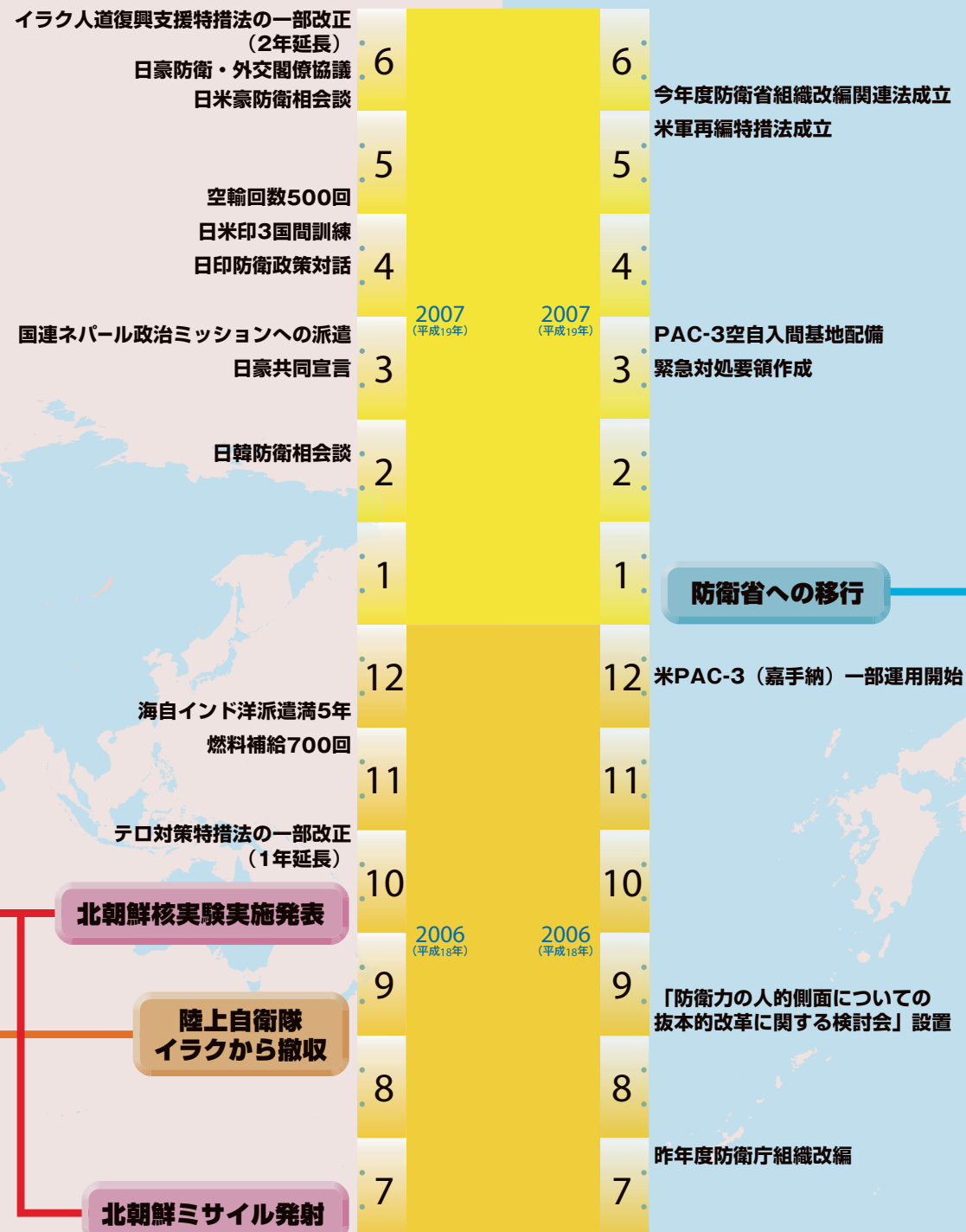
○北朝鮮による弾道ミサイル発射とわが国の対応とは？  
(P192参照)

昨年7月、北朝鮮は日本海へ向けて7発の弾道ミサイルを発射しました。また、昨年10月には、核実験の実施を発表しました。

弾道ミサイルや核の脅威に、わが国としてどう対応すべきか。「外交努力」に加えて、わが国自身の努力として「弾道ミサイル防衛システム」を構築すること、更なる米国との同盟強化による「核抑止力」が必要だと考えています。

## 国外編

## 国内編



○防衛省への移行の意義とは？  
(P143参照)

省移行により、防衛省は国防と安全保障の企画立案を担う政策官庁として位置付けられました。さらには、国防と国際社会の平和に取り組むわが国の姿勢を明確にすることができました。

防衛省は、「国の防衛」に専任する主任の大臣たる防衛大臣の下、責任と権限、そして主体性をもって、政策の企画立案や緊急事態対処等を行っていきます。

